

物流と防災の拠点となる港づくり ～東予港の耐震強化岸壁などの整備～

愛媛県

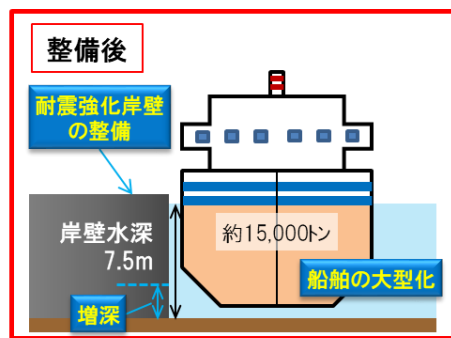
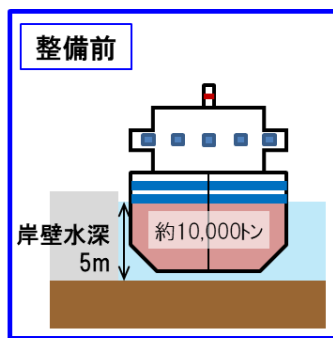


東予港(愛媛県)

撮影年月: H30.2

Now >>> Future

- ◇フェリーの大型化に対応し、より効率的な物流体系の構築が可能に！
- ◇震災後、すぐに海上輸送が可能に！
- ◇海上輸送を活用した輸送ルートの多様性が確保！



積載台数: 120台 → 160台 (12mトレーラー換算) 【3割増加】



○愛媛県は、**愛媛県旅客船協会と『災害時の船舶による輸送等に関する協定』**を締結し、被災者及び救援物資、災害応急対策要員・資機材等の輸送業務にフェリーを活用します。

四国ルートの利用による車両運転距離の変化

	運転距離
大分-関西	約7割短縮 (750km→200km)
宮崎-関西	約6割短縮 (890km→330km)
鹿児島-関西	約4割短縮 (880km→520km)

※各県庁所在地より吹田ICまで。本州ルートとの比較。

【四国ルート利用のメリット】

- 本州ルートと比較し、**トラックによる運転距離が大幅に縮減**される。
- フェリー利用により、**トラックドライバーの労務管理**上のメリットが生じる。
- トラック輸送のみの場合より、**定時性の確保**がしやすくなる。